

ごあいさつ

小松市には、白山連峰、木場潟、日本海などの美しく雄大な自然景観や寺社、町家などにみられる歴史的・伝統的な建築物も多く佇んでおり、市全域にすばらしい景観が作り出されています。これらのかけがえのない美しい景観は、先人たちにより大切に守られ、これからも将来へ受け継がれるべき貴重な財産であります。

そのため、小松市では今年度から景観法に基づく景観行政団体となり、景観の保全・育成・創造について、総合的かつ計画的に推進する「小松市景観計画」を策定いたしました。景観まちづくりには、市民、事業者、行政が協働して取り組むことが不可欠であり、景観に対する意識啓発を継続的に行う必要があると考えています。

「こまつまちなみ景観賞」は、その一助となるもので、景観を活かしたまちづくりを市民の皆さんと共に進めていくために、自然、風土など、景観上優れたまちなみや建築物などを選び、それに携わった方々を顕彰するものです。

平成11年から始まり、地道に真摯な活動が実を結び始め、今年で12回目を迎え、これまでに合計60点もの作品が入賞されました。各作品は、皆さんの暮らしに溶け込み、小松市に良好なまちなみ景観を与えています。

今回は、69件のご応募をいただき、選考委員会による厳正な審査を経て、まちなみ部門の建築物4点が入賞作品として決定されました。受賞された作品については、歴史・文化の風情が漂うもの、都市景観にふさわしいものなど、それぞれの地域の特徴を活かした作品が選ばれ、まちの風景を先導し、安らぎと潤いを与えることを期待しています。

この景観賞が皆さんの暮らしやまちの発展と調和した魅力ある景観づくりにつながることを願い、今回受賞されました方々には心からお祝いを申し上げます。また、本賞の趣旨に賛同し、ご応募いただきました多くの方々に深く感謝し、あわせて今後とも良好な景観づくりに向けてご理解並びにご協力を賜りますようお願いいたします。

こまつまちなみ景観賞
実行委員会会長
小松市長 和田 慎司



総評

12回目となります今回は「まちなみ部門」で68件、「まちづくり活動部門」で1件の応募がありました。一次の書面審査で「まちなみ部門」を12点(内1点は辞退)に絞り、引き続き現地審査を行い、市内5ヶ所で行われた市民投票結果(総数1,250票)を加味しつつ、最終的に「まちなみ部門」4点を入賞として選定しました。なお、「まちづくり活動部門」での入賞は、今回、見送られました。

「まちなみ部門」の今回の特徴として、一般住宅の応募が多く、全体の約60%を占めました。これら一般住宅での景観に対する配慮も、地区の景観的特性を活かすよう配慮したもの、近隣環境の良化に寄与するよう配慮したもの、設備屋外機等の雑物を露出させないようきめ細やかな景観的配慮を為したものなど、様々な視点から幅広い対処が見受けられるようになり、大変よい傾向と思いました。また新築以外に、改修によるものが増加していることも昨今の特徴といえます。古き良き景観や物に対する市民の関心がさらに高まりつつあることも明らかです。その他、今年度も応募条件に「経過年数を問わない」としたことで、結果的には入選には至らなかったが、時間を積み重ねたが故の良さを示す門や塀や古民家も見受けられました。

「まちづくり活動部門」で応募があった農村景観の保全・向上への取り組みについては、その主体的な活動に対して高い評価と大きな期待がありましたが、まだ活動が発展途中段階にあり、評価するには現状やや資料不足ということで先送りとなりました。今後の展開に再度期待したいと思いますし、こうした地道で自主的な活動の積み重ねこそが景観づくりには真に大切なことといえます。

北陸新幹線の開業を数年後に控え、また成熟型社会への移行が必然のものとなるこの時節に、アイデンティティに富み風格に満ちた都市／小松を築き上げていく上で、魅力ある景観づくりを図っていくことは重要なことといえます。ひとりひとりの前向きな取り組みと協働の下に、小松の景観づくりが為されていくことに一層期待したいと思います。

こまつまちなみ景観賞
選考委員長
森 俊偉



主催：こまつまちなみ景観賞実行委員会

小松商工会議所／(社)小松能美建設業協会小松委員会
小松建築設計監理協会／小松市造園業組合／小松市

【お問い合わせ】

こまつまちなみ景観賞実行委員会事務局(小松市都市創造部まちデザイン課) TEL0761-24-8099

第1回					
第2回					
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回					
特別賞					
第11回					



平成22年度
第12回受賞作品